

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第9回 定期総会 (通算14回)

議事次第 ・ 資料等

日時 2006年6月11日(日)

午後2時00分から午後3時30分

場所 三重県名張市上三谷268番地の1

エコリゾート赤目の森 会議室

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第9回 定期総会

資料添付リスト

議題

- 第1号議案** 2005年度の活動報告と決算報告 **議決事項**
活動報告 3ページから5ページ
決算報告 6ページから10ページ
- 第2号議案** 2006年度の活動方針案と 予算案 **議決事項**
予算案11ページ 活動方針案12ページ
- 第3号議案** 2006年度の役員選出（議案は当日配布いたします） **議決事項**

報告事案

1. 介護保険事業「デイサービス赤目の森」の取り組みについて 別紙
2. 第14回全国雑木林会議三重大会in赤目の森 開催について 別紙

【第1号議案】 2005年度の活動報告

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

2005年度 活動全記録

- 2005年
5
- 4月 8日 指定管理者スクール聴講 名古屋
17日 里山総合講座 04年閉講式
29日 ○環境大臣表彰式 東京
- 5月 22日 第四日曜日作業日
28日 ロザンヌ・ハガティ一行 来赤目の森
29日 里山総合講座 開校式
- 6月 12日 理事会 赤目の里山を育てる会 総会
19日 里山総合講座
25日～26日 週末ワークキャンプ ペレタイザー稼働
7月 2日 子どもエコクラブ
5日 赤目小学校 里山散策
5日 名張市市民活動実践事業
NPO初級講座 第1回 12日第2回
17日 里山総合講座
22日 ○環境大臣表彰 受賞祝賀会 東京
8月 18日 赤目小学校 教員研修会 赤目の森
20日～21日 NPO全国フォーラム参加 新潟
27日～28日 週末ワークキャンプ乗用草刈機でトムソーヤの草刈
28日 ○ペレタイザー稼働講演会 赤目の森
30日～9月13日 国際ワークキャンプ夏
9月 6日 名張市市民活動実践事業
NPO初級講座 第3回 24日第4回
10日 里山総合講座 夏の合宿 里山フェスタ
10月 8日 10日 ナショナル・トラスト全国大会 飯田大会 長野 飯田市
16日 里山総合講座
18日 デイサービス赤目の森 日帰り旅行
22日 滋賀マキノ町 講師 派遣
30日 育てる会 理事会 ○関西大学社会学部 合宿
11月 13日 ○ミツバチ講座開講
22日 鯖江市 講師 派遣
12月 18日 里山総合講座
- 2006年 1月 15日 里山総合講座
2月 12日 介護保険法研修会
18日 第14回全国雑木林会議実行委員会 準備会
18日～19日 週末ワークキャンプ 雑木林会議のポスターの原画となった
3月 7日 第14回全国雑木林会議現地地下見
20日～4月3日 国際ワークキャンプ 冬合宿
21日 第14回全国雑木林会議 実行委員会開催
26日 里山総合講座

2005年度の活動方針に沿っての報告

1. 創立10周年記念事業を実行し、全てのひととともに歩む赤目の里山を育てる会活動を実践していく。

1996年2月に任意団体の赤目の里山を育てる会を発足させてから、今年で満10年となりました。この間、多くの方々にご支援をいただき、ここまで来る事ができたことを会員一同喜びたいと思います。

方針では、10周年に相応しいイベントを行う予定になっていましたが、第14回全国雑木林会議三重大会を行うための実行委員会を立ち上げて、全力で成功に向けて取り組んでいます。デイサービス事業という「人」を預る仕事をしながら、週末に里山総合講座をはじめとする自主事業に取り組んでいて、別個に10周年の事業を行う余裕が今のところはありません。第14回全国雑木林会議を当会の10周年記念事業として行くのが、妥当と考えています。

里山総合講座は、順調に事業展開を行う事ができましたが、㈱イオンとの「子どもエコクラブ」などの事業に取り組むことに成り、一般の人たちを対象にした「里山自然観察会」なども行うことができませんでした。

情報発信が重要視されましたが、昨年は「里山だより」を3回発行し、メールマガジンもほぼ毎月発行する事ができました。また、ウェブサイトのドメイン(固有のアドレス)の取得や、里山だよりの公開、リーダー講座のレポート掲載、デイサービスのレポート掲載などができたと思います。

新しい理事会での任務体制は充分ではありませんでしたが、学生理事たちの様々な活動(IT環境の整備、保全活動のリーダー、ワークキャンプの取りまとめ、各種イベントの実施)は、赤目の里山を育てる会の新しい時代を感じさせるものとなりました。

2. 「原風景」の保持・保全を進めていくことにより、赤目の里山の値打ちを高める全面的な活動を展開する。

「原風景」の維持発展という社会的な課題が、今ほど大切な時代はないのではないかと思います。なぜなら、青少年に関わる様々な社会的な問題を見るにつけ、自己の未確立=心に住み着いている日本人としてのアイデンティティーの欠落をみることができるようになります。里山の保全と環境の維持は、人間形成に深い関係があると言っても過言ではないと思います。

そんな中で、昨年度も国際ワークキャンプが2回行われて、精力的な保全活動が行われました。そのために、里道の確保ができて、トムソーヤ広場を中心とする広大な広場の維持はそのまま、「100年前の風景」の維持に他なりません。毎月第四日曜日の集中作業日の会員の自主的な活動も大きな成果を上げてきていることも特筆しなければなりません。

また、このような赤目の里山で名張市立赤目小学校との協働授業である「里山自然散策授業」は、昨年で8年目が終わり、今年の春からは9年目の授業がスタートしているのです。何かと赤目小学校の先生たちとは関係を持ち続けている訳ですが、過日校長先生との話の中で、「本校には一人の不登校児童もいません」とおっしゃいました。この里山授業がどのような効果を上げているのかは定かではありませんが、一人ひとりに「自分の生まれた場所は素晴らしい」と思ってもらえるようにこれからも努力していかなければならないと感じています。

3. 創立10周年記念事業としてのトラスト地の獲得を行う。赤目の里山の地主さんたちネットワーク作りを行う。

10周年を記念したナショナル・トラストの取り組みは、現在のところ人材不足でなかなか進んでいません。土地の買収の取り組みは、情報収集が欠かせません。赤目の里山と呼んでいるおよそ200ヘクタールの丘陵地の中の一部の買収を進めることを課題としていますが、大規模開発からこの赤目の里山を守るためには、ど真ん中の買収を進めなければなりません。貴重な財源を有効に活用するためには第1号トラスト地のようにエコリゾート赤目の森から近くて、催し物に利用できて、また伐採や除間伐などの取り組みの技術的習得に利用できたりします。第2号トラスト地は何と言っても「ハッチョウトンボ」の成育する貴重な湿地田となっていて、保全す

る必要が高い場所です。このような目的がはっきりしている場所を買い取っていくためには、日常的な情報収集が欠かせないということです。

なかなか、地主さんたちとの情報ネットワークの確立も時間的人材的に困難な状況となっています。

4. 行政との協働の事業の推進を計るとともに、政策提言できるワークショップを積み上げていく。

昨年度の行政との協働事業は、名張市市民活動実践事業の二つの事業を取り組む事ができました。「NPO初級講座」と「里山総合講座」の二事業です。これまで、名張市だけではなく、三重県や経済産業省との協働事業を行ってきましたが、行政公募への提案事業化が難しく採択に及んでいないのが現状となっています。特に三重県との関係では、首長の交替による行政体質の変化により、NPOの位置付けが後退している中では如何ともしがたい状況があります。

器機の設定に関しては、それに対応する助成金公募に適宜に対応して、昨年度の「ペレタイザー」の設定などの実績が上がってきています。

地域活性化委員会との協力協働事業も考えているが、特に錦生地区の委員会への働きかけに至っていません。

5. 里山での介護サービス事業をさらに発展させて、里山の新たな可能性を追求する。

開設3年を無事に経過しているデイサービス赤目の森は、介護事業の積極的な実績を蓄えているということがいえます。季節折々の日常的な催し物(里山の散歩、茶摘、お餅作り、蛍狩り、日帰り旅行)などなどは、他の事業所にはない特別サービスの取り組みです。

また、日々の昼食にも地産池消の精神と身土不二、一物全体の実践により、多くの利用者のみなさんが健康を維持発展させていくようになりました。ただ、高齢者の特質で、転倒による入院・疾病・死亡などで利用数が激減する場合があります。昨年度はそのようなことが、夏から秋にかけて集中的に起こり、介護報酬が減となり、経営を圧迫することになりました。

しかし、春頃から利用者数は改善の方向で一時的状態を脱却することができています。

質の高いデイサービスの提供で、確実に利用者は増加するという確信を持ち、職員間の意思統一で今後も取り組んでいかなければならないと考えています。

伊賀の地域でNPOとして介護事業に取り組んでいる仲間たちとの関係強化を課題に挙げていたが、いまだネットワーク化に結び付けられていないのが現状です。

6. 関係する全てのネットワークを大切に、情報公開と貴重な情報収集をして、会の発展につなげる。

非営利の活動に取り組んでいくためには、多くの関係団体との提携、関係強化が求められる。

しかしながら、ITの進んできている状況の中で、情報の収集のためだけの関係ではあまり意味のない状況になり、その結びつきに変化が現れてきている。

特に第14回全国雑木林会議の発行にあたり、三重県内のNPO諸団体へのアプローチを続けている中で新しい関係ができるように務めている。

第1号議案 2005年度の決算報告

(特)赤目の里山を育てる会 第9回定期総会 資料

2005年度 本来事業 会計収支決算書

(2005年4月1日から2006年3月31日)

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

科 目	金額(単位 : 円)
I 収入の部	II 支出の部
1 会費収入 318. 000	1 本来事業費
2 寄付金収入 561. 200	① 助成金事業費 690. 797
3 各種助成金収入 1. 606. 000	② 企画運営費 310. 501
4 トラスト寄付金収入 10. 000	③ 里山整備費 59. 902
5 実費負担収入 13. 310	④ 委託費 150. 000
6 受託事業収入 484. 200	⑤ 介護事業費 16. 582. 542
7 自主事業収入 229. 880	本来事業費計 17. 793. 742
8 介護事業収入 14. 732. 101	2 管理費
9 その他収入 56	① 図書印刷費 102. 806
	② 諸会費 98. 000
	③ 事務消耗費 43. 319
	④ 地代 80. 000
	⑤ 広告費 52. 500
	⑥ 車両関係費 185. 997
	⑦ 出張旅費 424. 834
	⑧ 通信費 206. 928
	⑨ 振り込み料 40. 357
	⑩ その他 131. 577
	管理費計 1. 366. 318
当期収入合計 (a) 17. 954. 747	当期支出合計 (b) 19. 160. 060
当期支出差額 (a) - (b)	-1. 205. 313
前期繰越残額 5. 655. 013	次期繰越収支差額 4. 449. 700

収入内訳

会費 個人26. 8万 賛助5万
 寄付金 運営38. 6万 (福森亮二氏30万円寄付)
 ろうきん東海 17. 5万
 助成金 伊賀県民局 82. 6万 名張市48万
 国土緑推30万
 受託事業 里山講座8. 9万 ハチミツ講座 5. 6万
 バイオマス講座13. 7万 子どもエコ 10万等
 自主事業 外部講演23万
 介護事業 別紙の通り

支出内訳

- ・ 助成金事業 名張市、国土緑推など
- ・ 企画事業 みそ作り ミツバチ講座など
- ・ 委託費 プラネットフォー
- ・ 介護事業費 別紙の通り
- ・ 図書印刷費 インク代 トナー代
- ・ 諸会費 ナシヨトラ協会 NPOセンター
- ・ 車輦費 軽トラの修理など GS
- ・ 出張旅費 大臣表彰出席 10万
 各種大会への参加
- ・ 通信費 会報郵送 資料送付など

2005年度 貸借対照表

2006年3月31日現在

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会
金額(単位：円)

科 目			
I	資産の部		
1	流動資産		
	現金預金	144,237	
	内訳 現金	58,019	
	郵便貯金	5,400	
	郵便振替	2,930	
	第三銀行	27,212	
	第三銀行	29,316	
	第三銀行	7,739	
	第三銀行	715	
	ろうきん東海	12,906	
	介護報酬未収金	2,146,813	
	介護自費未収金	294,929	
	仮払金	13,770	
	流動資産合計	2,599,749	(a)
2	固定資産		
	有形固定資産		
	車両運搬具 軽トラック	41,902	
	車両運搬具 林内作業車	59,705	
	車両運搬具 送迎車両	2,066,904	
	什器備品 高速印刷機	43,712	
	什器備品 木製案内看板	13,907	
	什器備品 デジタルカメラ	13,383	
	什器備品 コンピューター	122,002	
	什器備品 ペレタイザー	827,739	
	什器備品 ペレタイザー	826,000	
	建物 ミニログハウス	458,432	
	第1号トラスト地	1,501,000	
	第2号トラスト地	1,000,000	
	有形固定資産計	6,974,686	(b)
	資産合計	9,574,435	(a)+(b) = (c)
II	負債の部		
1	流動負債 借入れ金	3,907,232	
	社保預り金	179,217	
	市民税預り金	30,800	
	源泉預り金	34,482	
	流動負債計	4,151,731	
	負債合計	4,151,731	(d)
III	正味財産の部		
	正味財産合計	5,422,704	(c)-(d)

1. 固定資産は次の方法で減価償却計算をしている。

車両運搬具 什器備品 : 定率法

2. 正味財産の増減内訳

減少	
当期収支差額	1,205,313
減価償却費計上	0
当期正味財産減少額	1,205,313
前期繰越正味財産額	6,628,017
期末正味財産合計額	5,422,704

3. 借入れ金の内訳

エコリゾート赤目の森からの立て替え分としては、1,587,752円で

個人からの立て替え分（育てる会役員）⁴¹²⁴ 2,319,480円となっています。

今期のデイサービス赤目の森の介護報酬減の分による資金繰り困難を解消するために立て替えを実施
流動資金の中の未収金が260万あり、収入が増加すれば、返済は十分に可能であると考えています。

4. 貸借対照表 収支計算書について

① 今期は、大きな欠損が出たので、減価償却は行っていない。減価償却を行わないで、欠損が出ているということ
とは、収入より支出が大きかったということが言えます。
ちなみに一年分の減価償却費は、法人全体でおよそ200万円くらいとなります。

② 今期は特に、車輛関係の費用が大きかった。車検が二台 軽トラのエンジン破損などが相次いで起こり、修理
に相当な費用がかかりました。

③ デイサービス赤目の森の収益事業の税務署への申告を今期から遡って、3年分行い、市民税(年に5万円)
県民税(年に2万円)の均等割りの負担を受けるようになりました。

合計 215円

2005年度(平成17年度)

収益事業報告書

デイサービス赤目の森の介護事業 損益計算書 単位円 2005. 04. 01~2006. 03. 31

三重県名張市上三谷 268-1

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

収入

・ 介護報酬	13,362,384円
・ 食事自費代等	1,369,717円

合計 14,732,101円

支出

・ 人件費	6,649,518円	(+非営利分24万円)
・ 交通費	244,140円	
・ 福利厚生費	752,717円	(+非営利分18000円)
・ 家賃等	4,680,000円	(+非営利分12万)
・ 光熱費	331,376円	(+非営利分15000円)
・ イベント事業費	320,742円	
・ 委託費	480,000円	
・ 食材関係費	735,411円	
・ 車両関係費	1,496,821円	
・ 広告費	18,900円	
・ 通信・図書費	99,621円	
・ 諸会費	20,000円	
・ 研修費	39,600円	
・ 日常消耗品費	205,433円	(+非営利分5万円)
・ 備品消耗費	26,076円	
・ 事務消耗品費	30,179円	
・ 保険費	2,158円	
・ 雑費	6,850円	
支出合計	16,139,542円	

収支計 欠損 1,407,441円

- ① 金額右のカッコ内の数字は、当会は経費と算入したいが、税務署の指導でデイサービス赤目の森の経費外として除外した金額です。例えば、人件費の全てがデイサービス赤目の森の事業のために供されたかといえ、里山総合講座や他の事業に使ったということもいえるだろうという意味です。
- ② デイサービス赤目の森の収入が150万円減となり、車検や車の修理などが相次ぎ、経費増となり、欠損となりました。順調に収入が推移すれば、次期は黒字転換になると考えています。
- ③ デイサービス赤目の森の利用者の確保が、経営安定に欠かせない状況となっています。06年度に入り、利用者は毎日7名弱まで回復しています。これを8名まで高めていきたいです。
- ④ 人件費では、収入減で時間給の削減したり、勤務時間の変更を計り、効率的な業務を遂行していますが、厳しい労働環境の中でヘルパーさんたちは頑張って仕事をしてくれていると思います。

みどりの基金 会計報告

2006. 3. 31

◆ 協力者数 65名	協力者一覧 (申し込み順 敬称略)		
藤野真一 (名張)	島田つや子(西宮)	高橋章(名張)	牧村好貢(木津)
家古谷瑛子(八尾)	塚脇英明(東大阪)	山川一成(高槻)	寺家静恵(守口)
水谷康範 (名古屋)	有吉春久(名張)	中村清(名古屋)	遠 典子(室生)
水谷義明 (吹田)3口	佐々木優文子1.2口(吹田)	濱崎勝美(堺)	西田宏子(生駒)
西田宏民2.4口(生駒)	文殊和美(名張)	福田和夫(木津)	石田一宏(流山)
永田昇 (豊中)	平野晴康(渥美郡)	速水敏子(大阪)	岡田光代(松原)
木下利一郎(松原)	鈴木紀(名張)	吉森加大(名張)	谷川洋一(東大阪)
松嶋欽一 (名張)	木村香代子(泉佐野)	西田一雄(京都)	ハガ武 (大阪)
ハガ制子 (大阪)	福森亮二 5口(名張)	舛次崇(西宮)	伊井野雄二(名張)
田村修市 (名張)	古川田鶴子(京都)	下川朋子(東大阪)	高田和弘(名張)
浜口秀子 (東大阪)	八島かをる (名古屋)	松本をよ(高砂)	笹尾美津子(大阪)
田郷誠之助(名張)	佐山孜 (名張)	市橋孝子(名張)	高田直俊2口(池田)
内田吉保 (名張)	前田善孝(名張)	谷川正行(名張)	市橋文子0.2口(名張)
熊本芳文 (名張)	吉田薫 (名張)	若松シズ子10口(寝屋川)	福井正樹(名張)
藤田洋子0.5口(西宮)	仲田敏0.4口(名張)	山崎忠久 (上野)	永山健二0.5口(名張)
村上豊0.4口(堺)	山岡義典 (狛江)	山上佳代子様 0.2口(堺)	佐藤範明様0.2口(大阪)
久保克美様(大阪)			

今年度ご協力をいただいたのは、村上豊様 0.2口です。ありがとうございました。

1万9

◆ 口数 78.2口

◆ 基金総額 ￥3,910,000-

◆ 取得不動産

買取日、

第1号地

97年2月

第2号地

2000年12月

面積

2934平方メートル

1086平方メートル

住所

三重県名張市上三谷字赤坂

三重県名張市上三谷字赤坂

地目

山林

田

名義

特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会

吉森 加大

取得価格

￥1,501,000-

￥1,000,000-

手続き費用

￥10,842-

￥44,420-

トラスト地看板設置 費用

￥141,750-

1号地舞台コンパネなど

￥75,453-

2号地修繕・機械関係

￥110,000-

1号地の枯れ松伐採2号地の

木道 トレイルの材料など

￥85,000-

2005. 3. 31現在の取得整備費用合計 ￥2,968,465-

2005. 3. 31現在のトラスト資金残 ￥941,535-

第1号地現況

- ・ コロシアムの上部の枯れ松の伐採 フレンドシップハウス周辺の整備
- ・ 座席周辺の草刈 倒木処理 などの実施。

第2号地現況

- ・ 一昨年 地目を田から変更する手続きを行った。完了は一年以上かかる見通しで現在も進行中。
- ・ ハッチョウトンボの生息地が貴重となっている。耕作地をどのように管理していくかを検討する必要がある。木道の老朽化が進み、抜本的な修理保全が必要となってきている。

【第2号議案】 2006年度の予算計画案

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会 第8回 総会資料

2006年度 予算計画書 案

06. 4. 1～ 07. 3. 31

収 入		支 出	
1 会費収入	350.000	1 本来事業費	
2 寄付金収入	600.000	① 助成金事業費	3.000.000
3 各種助成金収入	3.000.000	② 企画運営費	400.000
4 トラスト寄付金収入	200.000	③ 里山整備費	200.000
5 実費負担収入	50.000	④ 受託事業費	500.000
6 受託事業収入	600.000	⑤ 介護事業費	15.600.000
7 自主事業収入	300.000	本来事業費計	19.700.000
8 介護事業収入	16.600.000	2 管理費	
9 その他収入	100.000	① 図書印刷費	100.000
		② 諸会費	100.000
		③ 事務消耗費	50.000
		④ 地代	80.000
		⑤ 備品消耗費など	50.000
		⑥ 車両関係費	200.000
		⑦ 出張旅費	350.000
		⑧ 通信費	200.000
		⑨ その他	150.000
		管理費合計	1.280.000
当期収入合計	21.800.000	支出合計	20.980.000
		当期繰越差額	820.000
前期繰越残額	4.449.700	次期繰越収支差額	5.269.700

← ケンカシヨクノクガ
200万入、700万
介護用コシノス 100万以内

← 市民校、早民校

《収入部門》

- ・ 毎年の事ながら、助成金や受託事業などは、申請して勝ち抜いて得られる収入であるため、高額な金額を計上しているが、獲得できるかどうかは分からない。これまでの実績で考えている。
- ・ 特にバランスのよい収入構成を目指すために、会員増加を大きな目標としていかなければならない。
- ・ デイサービス事業利用者獲得の大きな課題を全会員のものにすることが重要。
 昨年のデイサービス月平均報酬 123万円 一昨年 134万円 今回の予定金額は 138万円

《支出部門》

- ・ デイサービス関連の支出が昨年より90万円減としている。車両関係費の減額や諸経費の切り詰めを行う。
- ・ 10周年企画並びに第14回全国雑木林会議三重大会の予算化はしていない
- ・ デイサービス事業費は、収入より100万円少ないが、減価償却をいれると収支は欠損となる

【第2号議案】 2006年度の活動方針案

1. ^創立10周年記念事業としての第14回全国雑木林会議三重大会 in 赤目の森の成功させて、多くの人たちに里山の大切さを普及啓発していく。
 - ・ 9月14-18日の「第14回全国雑木林会議三重大会 in 赤目の森」を立派に開催させる。
 - ・ これらの機会に里山に関心を寄せる全ての人々に対して、親しめるイベントや自然体験会などを行う。
里山総合講座 名張市実践事業など
 - ・ 会議を契機に、地元へに依拠し、情報発信に心がけて 意思疎通が図られるような取り組みを重視する。
ナショナル・トラスト運動の普及啓発の場として位置付ける
「里山だより」 「ホームページメールマガジン」などの発行 利用
 - ・ 赤目の里山を育てる会への求心力の強化としての場 三重県内のみどりのNPOとの関係強化を図る。
2. 赤目の里山の保安全管理を着実にいき、景観の保持と利用促進を両立させていく。
 - ・ 主要里道の確保 復旧させなければならない里道を中心に、保全の取り組みを行う。
 - ・ 関係する里山の伐採更新が図れるものについては、極力努力する。
 - ・ 日本国際ワークキャンプセンターとの関係強化を図り、人材の確保を行って行く。
 - ・ 「原風景」としての里山を意識して、きれいでスマートな里山空間を創造する。
 - ・ 子どもたちとの企画の実施、木質バイオマスエネルギーの利活用としての里山利用を迫及する。
 - ・ ハチミツクラブとの関係強化を図り、事業化を進めていく。
3. 10周年の記念トラスト地の確保を目標とする。
 - ・ 会員 地域の人たちへナショナル・トラスト運動の普及啓発を行ない、みどりの基金の協力を求めていく。
 - ・ 10周年として記念のトラスト地を購入できるような取り組みを進めていく。
4. 地域に根付いた取り組みを進めていく。
 - ・ まちづくりにおける赤目の里山の位置付けをどのように考えるかを問う取り組みにしていく。
 - ・ 地域にとって赤目の里山とは、どのような存在なのか、そのような観点から考え直してみる。
 - ・ 名張市への里山保全の提言や「地域活性化委員会」との結びつきを再度考えてみる。
5. 介護事業のさらなる発展を迫及し、質・量とも一人前の事業体として研鑽を積む。
 - ・ 昨年の介護報酬ダウンの経験を生かして、広報活動や他の事業所さんとの関係を重視して、利用者さんの確保に全力を上げて取り組む。
 - ・ 今年度4月からの介護報酬の改定での報酬減の可能性を、利用者大量確保と、ムリ・ムダのない運営を行ってカバーしていく。
 - ・ これまで通り、里山でのデイサービス事業の取組みの枠にとらわれず、更なる可能性を追求していく。
 - ・ 他の団体との交流を促進し、里山での介護事業を広く情報発信させていく。
6. 環境関係のネットワークを大切にして、情報公開と貴重な情報収集をして会の発展につなげる。
 - ・ 様々な自主的なイベントを開催し、独自のネットワークづくりを迫及し、会の発展に寄与する。
 - ・ 名張市市民活動センター 三重県NPO関連団体などのネットワークの構築。
 - ・ 地元「地域活性化委員会」との協力協働関係の追求
 - ・ (社)日本ナショナル・トラスト協会 日本国際ワークキャンプセンターとの関係強化

デイサービス赤目の森の業務説明

2006.6現在

デイサービス赤目の森
施設長 伊井野 雄二

- ・認可日 平成 14 年 12 月 1 日
- ・事業主体 特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会
- ・責任者 理事長 吉森 加大 施設長 伊井野 雄二 介護主任 吉田 薫
- ・利用定員 10 名
- ・職員 施設長兼生活相談員 1 名 常勤ヘルパー2名 非常勤看護師 1 名
非常勤ヘルパー1名 合計 5名
- ・施設周辺環境 名張市南西部丘陵地帯 通称 赤目の里山隣辺部
- ・現在の営業日 月曜日から土曜日 祝日は営業 営業時間 9 時から 17 時まで
- ・現在の実利用者数 22名
- ・現在の利用状況 平均 7名/日
- ・利用者の介護度内訳 要支援 5名 介護 1 12名 介護 2 3名 介護 3 1名 介護5 1名
- ・施設の受け入れ介護度 車椅子の方にも対応可能です。
- ・施設 環境保全型ペンション エコリゾート赤目の森の施設を利用
周囲も里山の豊かな自然に包まれて、心の癒しを得られます。
- ・昼食の内容 レストラン季楽の健康料理を提供してもらっています。 ← 1日100円 金額自己負担 (多食おやつ)
低カロリー 旬の食材を生かしたメニュー
- ・お風呂 地下水を使った「炭酸風呂」を提供 定員 5名～6名
- ・送迎車両 車椅子対応車両1台 ワゴン車1台 軽乗用車1台 ← 1日 約 40km 送迎
- ・デイサービス赤目の森の介護サービスの特徴
 - その1 自然豊かな里山の自然環境とそれを整備する人たちによって作られた、自然公園化している「赤目の里山」を日常的に散策したり、休息の場に利用することができます。
歩行が困難な利用者の方にも、車椅子などを使って楽しんでいただけるよう配慮しています。そして、身近な自然環境の保全に自らも関わっていけるような雰囲気づくりとその意義についても、日々お話を進めています。
 - その2 第一週 職員担当講座 第二週 自然体験 第三週 身体運動 第四週 社会貢献活動などの位置付けてデイの日の内容を設定し、個々の利用者の方にもそれぞれに目標を設定してもらい、縦糸と横糸で充実した日々の中で振り返った時にそれなりに積み上げてきた成果を見られるような取組みにしたいと考えています。
 - その3 自然の豊かさを実感し、楽しみと実益を兼ねて、みんなで「施設菜園」を作って、種まきや水やり 草取りをして、収穫した作物を昼食にいただいています。
- ・利用料など 別途資料参照
- ・連絡先 三重県名張市上三谷268-1 電話 0595-64-0051 担当吉田
当会 ホームページ <http://www.akame-satoyama.org>

※ 1. 広告を出している。

月別の利用者数と介護報酬の推移

【この間の事業の展開について】 (食事自費分は、介護報酬の中に含まず)

月	実利用者	実利用日	延べ利用者数	介護報酬
03年2月	1名	2日	2人	22,120円
03年3月	5名	3日	9人	90,420円
合計			11人	112,540円
03年4月	8名	12日	25人	224,480円
03年5月	12名	13日	46人	379,440円
03年6月	15名	13日	55人	548,100円
03年7月	15名	13日	66人	570,610円
03年8月	13名	13日	60人	544,120円
03年9月	15名	13日	56人	506,180円
03年10月	15名	13日	70人	609,970円
03年11月	17名	17日	83人	767,160円
03年12月	25名	22日	121人	1,029,140円
04年 1月	24名	20日	110人	986,170円
04年 2月	19名	20日	104人	964,300円
04年 3月	21名	22日	123人	1,127,570円
合計			919人	8,257,240円
04年 4月	20名	22日	123人	1,121,840円
04年 5月	20名	22日	114人	998,710円
04年 6月	22名	20日	126人	1,113,250円
04年 7月	22名	23日	158人	1,420,100円
04年 8月	22名	20日	129人	1,172,850円
04年 9月	20名	22日	129人	1,170,290円
04年10月	20名	22日	126人	1,141,720円
04年11月	21名	21日	126人	1,131,410円
04年12月	22名	21日	132人	1,182,010円
05年 1月	18名	20日	125人	1,119,610円
05年 2月	18名	20日	124人	1,108,580円
05年 3月	18名	22日	144人	1,314,750円
合計			1556人	13,995,120円
05年 4月	20名	22日	149人	1,353,790円
05年 5月	17名	21日	140人	1,268,750円
05年 6月	18名	22日	136人	1,230,180円
05年 7月	17名	22日	144人	1,360,690円
05年 8月	17名	22日	145人	1,379,340円
05年 9月	17名	22日	117人	1,074,620円
05年10月	16名	22日	113人	976,760円
05年11月	14名	21日	99人	843,510円
05年12月	15名	21日	105人	897,840円
06年 1月	15名	20日	93人	806,350円
05年 2月	19名	20日	112人	944,780円
05年 3月	17名	23日	130人	1,121,400円
合計			1483人	13,258,010円
06年 4月	18名	22日	121人	1,130,560円
06年 5月	22名	22日	140人	1,333,060円

食事加算不適

+ 食事分 10万円